

2007年度 第5回理事会 議事録

2007年10月25日

日本地質学会 会長 木村 学

期 日：2007年10月13日（土）

12：00～17：40

場 所：地質学会事務室

出席者：木村会長、伊藤副会長、佃副会長、
渡部常務理事・天野副常務理事・上砂・狩
野・倉本・斎藤・中山・藤本、宮下・向
山・矢島 各理事

欠席理事：Wallis・公文・久田

* 成立員数（12/17）に対し、出席者14名、
委任状3名で、理事会は成立。

報 告

1. 運営財政部会（部会長-上砂、中山、向
山、倉本）

総務委員会（委員長-上砂）

・9月22日、新学会、日本活断層学会が発
足、会長以下、出席不都合につき、祝電
を送った。

<他団体の会合、後援など>

・日本土地環境学会2007年シンポジウム
「土壌汚染対策の現状と今後」（11/10）
の協賛を承諾。

・日本学術会議：2010年度開催国際会議の
共同主催の募集、募集期間10/1-11/30

・地盤工学会：2008年（7月9-11日）技
術者交流特別セッションへの参加案内、
募集10/30まで

会員関係（担当理事-中山）

1) 入会の承認（正1名）望月伸竜

退会（正1名）池上一誠

逝去（正3名）加藤又二郎（9/14）、村
井貞允（10/1）、西野英之（10/3）

2) 9月末日会員数

賛助34、名誉74、正4,427（うち院270）、
準39、合計4,574（前年比 -55）

3) 会員名簿2007年版作成、大幅に作業が
遅れている。10月末には完成予定。

広報委員会（担当理事-倉本）

インターネット運営小委員会（委員長-坂
口有人）

新MLを導入する

2. 学術研究部会（部会長-公文、）

行事委員会（斎藤委員長）

・札幌大会行事委員会議事録の要点が紹介
された。

・秋田大会について

普及講演の場所は問題

市民行事における科研費の申請準備中
鉱物科学会との連携、共催の計画は無い。
日韓と連携させる。

・岡山大会のことなど

・2010年以降の大会開催地：5ブロックの
ローテーション

中部支部⇒関東⇒近畿+四国⇒東北+北
海道⇒西日本

本部が積極的に応援する。

たとえば、大会準備運営マニュアルの作
成、本部で活動を支援

専門部会連絡委員会（担当理事-天野）

・部会の整備（部会員登録・管理）につい
て

News誌、HP、会員名簿に部会紹介記事
の掲載および登録案内を掲載準備中。

・構造地質部会規約の改定、変更案

1. 構造地質専門部会員

構造地質部会メンバーリスト登録者
でかつ地質学会員であること。

2. 総会成立条件

構造地質部会委任状を含む1/10の出席
により成立する。

3. 構造地質部会事務局員

構造地質部会は会長、行事委員、事務
局員で運営され、会長と事務局員の任期
は2年とする。

国際交流委員会（公文 国際特任理事）

1. 韓国地質学会との交流協定の締結：最終
案の確認

日韓小委員会を立ち上げ、高木会員を委員
長に選んで、協定書の策定を行うとともに、
韓国側とも協議した。交流協定は「協定書」
として締結することで合意した。文章はサイ
モン理事以外にも早稲田大学の米国人に点検
を依頼し、文書のブラッシュアップもほぼ完
了した。最終案を理事会で承認願いたい。日
韓の位置が入れ替わった文書を各1通作成す
る。木村会長に高木小委員長も同行し、調印
式に臨む。

委員：高木秀雄、大藤 茂、高橋 浩（ユ
タカ）

なお、委員任命は会長権限だが、小委員会
委員に久田健一郎会員を追加することも承認
願いたい。

2. 日本地質学会とタイ地質学会の間で、学
術交流協定が締結されましたことを受け、
その実質化のために国際交流委員会の下に
タイ日小委員会を設立する準備を進めるこ
とを承認されたい。

委員候補：久田健一郎、上野勝美会員（福
岡大）

・ニュース誌等でアナウンスし、委員希望
者を募った上で、正式発足を持って行く
予定。

3. モンゴル地質学会およびフィリピン地質
学会と日本地質学会との間で、学術交流
協定を締結することと相互の学会間の交流

の実質化を図るために、国際交流委員会の下にモンゴルー日、フィリピンー日の小委員会を設立する準備を進めることを承認していただきたい。

委員候補：モンゴルー日：東田和弘会員(名古屋大学)

フィリピンー日：松岡 篤会員(新潟大学)・ニュース誌等でアナウンスし、委員希望者を募った上で、正式発足を持って行く予定。

3. 編集出版部会(部会長・狩野, 久田, 宮下, Wallis)

地質学雑誌編集委員会(委員長・狩野 副委員長・久田, 宮下=企画担当)

(1) 今月の編集状況は以下の通りです(10月11日現在)。

113-9月号：論説4・短報1・口絵1(約60ページ・発行済)

113-10月号：論説3・短報1・口絵1(約45ページ+・校正中)

2007年度投稿論文総数63編[論説43(和文42+欧文1), 総説7(和文7), 短報11(和文10 欧文1), ノート2(和文2)]口絵7(和文5 欧文2) ※うち46件が電子投稿

投稿数昨年比 -22 査読中47編 受理済み 5編

(2) 編集委員の交代

交替：三田村宗樹→中里裕臣(農業工学研究所)

山本正伸→入野智久(北海道大学大学院地球環境科学研究院)

保柳康一→高野 修(石油資源開発技術研究所)

近藤康生→奈良正和(愛媛大)

前川寛和(任期内, Island Arc編集委員長へ)→森下知晃(金沢大学)

利光誠一→重田康成(国立科学博物館)

火山関係の補充：三浦大助(電力中央研究所)

退任：坂井 卓

企画部会報告

(1) 特集号について

1. 特集号：「21世紀の地学教育の深化に向けて」6編(受理1・受理間近3・著者修正中2)

時間がかかっているが、ついに受理原稿が出始めている。

2. 下記5件(6号分)が現在進行中, 1件が準備中。

1) 地震探査から見た日本列島の地殻構造：佐藤比呂志

2) カルデラシンボ・トピックセッション：三浦大助(2分冊予定) 2月投稿予定

3) 構造地質部会通常特集号：構造地質部会

4) 中越沖地震関連特集号：構造部会

5) モデル実験で探る地形・地層形成過程

のダイナミクス：横川美和・遠藤徳孝・武藤鉄司・宮田雄一郎 2月投稿予定
6) 海洋モホール関連：前田仁一郎 議論中)

※上記の大部分が、高知大会および札幌大会時のシンポジウム, トピックセッションの特集号であり, これまでの企画部会を中心とした努力がようやく実を結びつつある。これらが順調に進行すると, 地質学雑誌の危機突破に光がみえてくると思われる。

(2) 特別寄稿依頼について

次の2件を依頼中。1. 丸山茂徳：紫綬褒章記念, 2. 磯崎行雄：学会賞受賞記念

Island arc編集委員会(担当理事 Wallis, 事務局長 竹内圭史・角替敏昭)

1. 16-4号に来年の600ページから30pを前借りする。W-B社も了承の方向。年間606p見込み。

2. 17-1予定の特集(6編)が厳しくなってきた。手持ち一般原稿が十分あるのでそれらを充当する。

3. 22日に現新編集委員長らでWiley-Blackwellと懇談。08契約の変更点と中期的展望など。

4. 編集状況 2007年16巻の年間契約ページ数576(～最大620)p

1号 Pictorial 1編, 特集6編, 一般8編。210p。18年度では計画540pに対し537p。

2号 一般7編。108p。

3号 フィリピン海特集7編, 一般5編。186p。9月下旬発行済み。

4号 Pictorial 1編, 一般5編。Indexほか計103p見込み。Online Earlyで公開済み。

年間残り72pでは不足なので契約に基づき2008年(600p)から30p前借りする。年間606p。

5. 2008年17巻の年間契約ページ数は600-30=570p

17巻1号 最大でも200p以下に標準化する方向。順次入稿中, 期限11月末。

手持ち原稿：Pictorial 2編一般9編, および特集1編。17巻1号掲載予定(Pictorialは毎号1編ずつ)

6. 特集

フィリピン海特集：Guest Editors小原・徳山・Stern

全11編のうち7編を16-3号掲載。残り4編は後日一般として掲載する。

板谷特集：GE板谷・Sajeev・Wallis

6編受付済み, うち1編受理。17-1号予定だが厳しくなってきた。

久田特集：GE久田・Yumul(IGCP 516)

全24編受付済み。17-4号・18-1号分割掲載を予定。

HKT(ヒマラヤ)特集：GE Wallis・

Aitchison・Ali

07年5月集会の特集。全24編予定, 7編受付済み。掲載は18-3号以降になる。08年集会の特集の打診も来ている。

7. オンライン投稿

07年9ヶ月で新規投稿88編(特集10+6+24+7編, 一般37編, 口絵4編)。

一般に限っても原稿過剰になっている。需給調整策として2008年から年間600pに増, 無料15pに減。投稿増の主因は2005IF上昇にあると推定。2006IF低下の悪影響も今後予想される。オンライン化後1年半の正味のReject率は12/117=10%。Reject率を上げるようW-B社より要請あり。

企画出版委員会(担当理事 藤本)

・「屋久島」たんけんマップ企画書がだされた。

4. 普及教育事業部会(部会長・矢島, 藤本)

・札幌大会の報告,

(特に小さなEarth Scientistのつといで宮内さんの発表についての報告)

・中教審, 文科省学習指導要領改訂に対するパブリックコメント送付へ向けて

・地惑連合・その他学会の報告

(9月28日文科省提言提出報告/9月27日小学校理科公開授業報告/国際地学オリンピック派遣状況)

・たんけんマップの次号は「屋久島」

・高岡善成会員の地質学雑誌全巻収集について

5. その他

JABEE委員会(委員長・天野)

・10月13日(土)にJABEE審査委員講習会が実施された

学会就業規則整備委員会(委員長・立石雅昭)

・委員：佐々木和彦, 立石雅昭, 湯浅真人,

互選で立石氏を委員長に選出。

・第1回委員会を10月9日に開催, 第2回は11月5日の予定。

12月の評議員会までに中間答申出す予定。

○審議事項

1. 各賞選考手続きの変更についてメール審議の確認

・細則の変更点を確認した。

・主な変更点

・国際賞の授与は毎年度1名以下

・日本地質学会賞, 日本地質学会国際賞,

日本地質学会小澤儀明賞, 欄山雅則賞の推薦委員会の設置

・評議員会への各賞選考手続き修正に際する質問回答の確認

2. 東レ科学技術研究助成への応募推薦についてメール審議の確認

応募数3件のうち、推薦制限に従い、加藤泰浩会員、高橋雅紀会員の2名を選考し推薦した。

3. 国際交流関係

- 1) 日韓、地質学会の交流協定書の確認し承認した
- 2) 日韓小委員会委員の承認をした
- 3) 日タイ小委員会設置の承認をした
- 4) 日蒙小委員会設置の承認をした
- 5) 日比小委員会設置の承認をした

4. 構造地質部会規約の改定(天野)

- ・構造地質部会規約の改定について承認した。
- ・改訂内容
 1. 構造地質専門部会員
構造地質部会メンバー登録リスト登録者でかつ地質学会員であること。
 2. 総会成立条件
構造地質部会委任状を含む1/10の出席により成立する。
 3. 構造地質部会事務局
構造地質部会は会長、行事委員、事務局員で運営され、会長と事務局員の任期は2年とする。

5. 国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ2、「屋久島」たんけんマップの企画承認について

- ・編著者：屋久島地学同好会+日本地質学会地学教育委員会
- ・監修：安間 了
- ・来年度の事業計画に入れる

6. 来年度事業計画・予算計画策定へのスケジュール確認

- ・11月理事会に来年度事業計画骨子を提出する
- ・来年度事業全体については会長が骨子を示す
- ・「地学読本」出版にともなう普及講演会の検討(普及教育委員会に検討依頼)

7. 法人化実行委員会(新規提案)

- ・検討項目
新法への法的整備への対応
財政計画
事業計画作成(5年間+5年間)
- ・メールで詳細を検討する。

8. 学会入金システムの抜本改革(クレジットカード制の導入)

- ・運営財政部会で実現可能性について検討する。

9. その他

- 1) 防災立地PDのとりまとめの段取りと第2弾の確認
- ・日本地質学会第114年学術大会緊急パネルディスカッションの議事録, 当日資料

を公表する。

- ・新潟大における討論会・巡検の実施(主催：構造地質部会)
 - ・勉強会の実施計画(佃理事が次回までに検討)
- 2) 選挙について
 - ・選挙期間の定義
 - ・公示日の確定
 - ・選挙管理体制
 - ・公明正大さの確保
 - ・広報の充実
 - 3) 近親者との利害関係が存在する場合の利益相反行為に関する原則の検討を法務委員会に検討を依頼(2008年3月に答申)
 - 2) 次期役員体制について
 - ・非改選理事から
 - ・理事に欠員が生じた場合
 - ・会長・副会長に当選した場合は、次期代議員会以降、理事解任される。
 - ・1年任期の理事を、残り1年任期の代議員の選挙により選任する。
 - 5) 2010年以降の大会開催地は5ブロックローテーションとする
 - ・大会マニュアルの作成(12月を目途)
 - ・本部で活動の一部をフォローする
 - 6) IYPEへの参加申し込み依頼(佃地質学会として参加申込をすることとした。

2007年度 第2回 定例評議員会議事録

2007年11月5日

日本地質学会評議員会議長 新井田清信
副議長 保柳康一

日時：2007年9月8日(土)

14:20~17:50

場所：北海道大学 高等教育機能開発総合センター E204室

出席者：木村 学会長 伊藤谷生副会長 佃 栄吉副会長

(評議員23名) <留任> 安藤寿男 石垣 忍 石渡 明 井龍康文、小山内康人
新井田清信 針金由美子 松岡 篤 松田博 貴 丸山茂徳 渡辺真人

<新任> 阿部国広 磯崎行雄 卜部厚志 永広昌之 大友幸子 川端清司 北里 洋 柴 正博 新妻信明 保柳康一 堀 利栄 山根 誠

(理事9名) 渡部芳夫 天野一男 上砂正一 Simon Wallis 公文富士夫 中山俊雄 久 田健一郎

藤本光一郎 宮下純夫

(事務局) 橋辺菊恵

欠席者 評議員(委任状16名)：会田信行 浅野俊雄 足立勝治 荒戸裕之 井内美郎 岡 孝雄 加藤 進 紺谷吉弘 酒井治孝

沢田順弘 徐 垣 高木秀雄 中川光弘 松本俊幸 三宅康幸 脇田浩二

欠席者 評議員(委任状なし 1名)：山路 敦

理事(4名)：狩野謙一 倉本真一 斎藤 眞 向山 栄 矢鳥道子

* 成立員数(21/40)に対し、出席23名、委任状 16名で、評議員会は成立。

* はじめに、川端清司、卜部厚志両評議員を書記に選出。

報告事項

I 理事会報告

1 運営財政部会

1) 総務委員会

庶務関係(担当理事-上砂)

- ・計測自動制御学会「第33回リモートセンシングシンポジウム」の協賛を承諾
- ・産総研「第8回地質調査情報センターシンポジウム」の後援を承諾
- ・地震学会・火山学会共催「第8回地震火山子供サマースクール」の協賛承諾
- ・朝日新聞社「第5回ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ2007(JSE2007)」

後援を承諾

JABEE委員会(委員長-天野)

- ・10/13予定の審査員の講習会(早稲田大学)参加者の募集を行っている。学会より旅費の補助を予定している。

地球惑星科学連合(木村会長)

- ・法人化を進める中で、46団体の今後の連合のあり方など、将来構想委員会を立ち上げて検討している。連合でもメルマガを発行予定。

会員関係(担当理事 中山)

前回から今回までの入退会ほか

①入会

- 1) 正会員(20)：吉川武憲 清水連太郎 加藤清次 阿部 進 亀田 純 金 幸 隆 近藤玲介 境 智洋 酒井利彰 新村太郎 田村明弘 永井 潤 吉田麻美 渡部路子 佐野貴司 土 宏之 渡邊正人 坂口 秀 長谷川智史 有道敏雄

- 2) 院生割引(95)：岩谷北斗 澤田大毅 岡本泰子 シャルコフスキ アネストリア 青柳大介 池田昌之 石原幸子 市来孝志 岩村里美 江川佳苗 遠藤俊祐 大友隆史 大場裕史 大森康孝 大谷麻美 梶 海彦 勝根 郷 勝部亜矢 加藤暁之 加藤史恵 上條裕久 亀 聡美 北嶋亜以子 國光陽子 熊田祐子 小林今日子 駒田希充 齋藤華苗 阪上雅之 佐々木聡子 佐々木潤 佐藤伸明 椎根 大 志村 崇 下郡裕之 菅沼香織 鈴木将治 鈴木隼人 清家一馬 高島紫野 高梨幸志郎 竹田知史 館 良和 谷口圭輔 塚田 豊 鶴岡 昂 寺下